

https://www.youtube.com/watch?time_continue=27&v=9ZZzbdZKZil&feature=emb_logo

2016年2月 オーストラリア、ニューサウスウェールズ州議会での
マリア・フィアタローネ＝シン教授のスピーチ （日本語字幕より）

お子さんが肝炎で末期の肝不全に陥ったとします。王立セントアルフレッド病院の臓器移植主任の卓越した医師に、臓器移植を手配し待機リストで最優先にしてくれると耳にします。アポをとると、驚くべきことに手術は来週手配できると言われます。我が国のクイーンズランド州で死刑宣告された若い囚人が処刑され、彼の肝臓が摘出され、お子さんの救命のためにシドニーに搬送されます。この肝臓をお子さんに移植することを望まれますか？ こう尋ねられたとしたら何と答えますか？

ほとんどの方は恐れおののき、このようなことには合意しないと思われるでしょう。処刑はオーストラリアでは禁止されており、1人の命を救うために別の人間を殺すことは赦（ゆる）されることはありません。この医師の法外な治療案を倫理委員会と外科主任に報告し、即座に除名を要求することでしょう。「ヒポクラテスの誓い」ならびにオーストラリアの医療・手術の原則理念に反するからです。

しかし、今夜お聴きになったことをどうお考えでしょうか？ 数十年にわたり中国で行われてきたのです。処刑された男性はご自身の隣人とは考えられないでしょうか？

この中国の巨大な移植制度を画策した黄潔夫医師は、シドニー大学で研修を受けた 肝臓・胆道の移植医であり、現在シドニー大学の名誉教授であると申し上げたらどう思われますか？

過去2年間、5回にわたり、今夜の映画でご覧になった多くの人々や世界的に傑出した倫理学者、医師、人権弁護士、ノーベル平和賞候補者と共に、シドニー大学の副学長と医学部長に手紙を出しました。黄医師の名誉教授の肩書を取り下げるように嘆願したのです。医師として、またシドニー大学の倫理基準に悪びれることなく違反しているからです。5通の手紙に対する回答はまだ受け取っていません。

今日、オーストラリア市民として、中国に行くことは自由です。注文に応じて誰かが殺害され、その臓器をご自身か愛する方に移植してもらい、手厳しい検査なく入国審査を通過することが可能です。手術の傷跡や盗まれた臓器を検査されることはありません。現在、リンゴを機内からオーストラリア国内に持ち込もうとしたら、税関で厳しく取り締まられます。なぜこのような状況が存在するのでしょうか？

オーストラリアで、誰かの銀行口座、配偶者、事業を奪うために殺害を手配したら、この国では終身刑です。殺人陰謀罪に問われます。中国に渡航し、中国の囚人や宗教実践者を殺害し利を得ることは、同じ共謀、同じ犯罪ではないのでしょうか？ 移植ツーリズムを犯罪とし健康保険を不適用にした国は、イスラエル、スペイン、台湾の3カ国だけです。オーストラリアには、この人権侵害に対する法律はありません。法律を導入すべきだと思います

「中国の高官が医療制度を改革するとしているので、医学界に迎え入れるべきだ」という人もいます。時期尚早であり 根拠に基づくものではありません。イーサン・ガットマン氏が述べているように、囚人からの臓器摘出が 2015 年 1 月 1 日に停止した証拠は何もありません。実際、臓器摘出専門の外科医チームの雇用がここ 5 年間、軍病院で加速しています。臓器のための殺害は今も行われていることを中国の軍病院の外科医から、最近、米国で語られたという欧米の医師も存在します

ガットマン氏が最近記述しているように、中共がこの人道に対する犯罪を続けることは阻止できませんが、少なくとも自分たちの住んでいる社会の道徳の墮落に歯止めをかけることはできます。

オーストラリアの王立プリンスアルフレッド病院で臓器狩りが行われるという発想に恐れおののくのなら、加害者自身も認め、これまでも今も起こっていることに直面して、沈黙を続けることが可能でしょうか？ 沈黙は共犯を意味します

600 年前に殉死した中世の宗教思想家ヤン・フスは、現代の人権思想の発展の上で偉大な人物に挙げられます。人類の普遍的なモラルとしての平等が存在し、自然で譲ることのできない人類の自由と幸福への権利は何にも勝る、という思想です。フスは神学校で最後まで学問を修め、次の言葉を残しました。「真実を探求せよ 真実を聞け 真実を学べ 真実を愛せ 真実を語れ 真実を抱け 真実を守れ 死ぬときまで」。彼は火刑に処されました。当時の権威に対して真実を語ったためでした。現代の私たちがこのような運命を辿ることはまずないでしょう。しかし 耳が聞こえなくなったかのような沈黙があります。

私たちに何ができるのでしょうか？

現実的な提案がいくつかあります。

第 1 に、最も重要なことは法律を通過させることです。オーストラリア市民が臓器狩りをする国に渡航するか、ブローカーとして仲介することを犯罪とする法律です。臓器が倫理的に摘出されたかを確認する術がないからです。ドナーの処刑ではなく強制的な提供ではなく弱者に金銭を与えての摘出ではない倫理性です。我々の主権意志だけでできることです。この非道徳的な売買の一部にはならないと宣言しあらゆるレベルで従事する者を罰します。オーストラリアでは違法とするのです。オーストラリアの国民が、他の国 — 特に中国で — このようなことをすることを違法とするだけのことです。

第 2 に、シドニー大学の副学長マイケル・スペンス博士に、「なぜ中国の移植制度のトップの黄潔夫が今でもシドニー大学の名誉教授なのか？」「倫理の基本理念に反する行為が名誉ある肩書に相応しいものであるか？」を尋ねることです。

第 3 に、国際移植学会の会長でありシドニー大学の教授でもあるフィリップ・オコネル医師に、黄潔夫を国際移植学会から除名し、2008 年に黄潔夫に国際移植学会が授けた名誉勲章を取り下げよう求めることです。全ての国際移植学会の会員は、国連、世界保健機関、世界医師会、国際移植学会の理念を貫く必要があるからです。

2015年1月に黄潔夫は次のように明言しています。「処刑される寸前の囚人は臓器摘出に自由意志で合意する権利と能力があると信じる」。この言葉を信じる者はいません。

2015年のインタビューで黄潔夫は次のように語っています。「私は死刑囚からの臓器提供に反対するとは言っていません。死刑囚が自己の良心に動かされた場合、臓器提供は不可能ではありません。しかし 公平公正な分配のために 市民の臓器提供制度、赤十字、オンラインのコンピュータ制度を通さなければなりません。これで透明になりました」。抑制の効かない状況に陥ってしまいました。人体部品のために処刑された囚人と良心の囚人からの臓器が、黄潔夫が言うように、自主的に提供された臓器と区別なく公平に混合されてしまったのです。これが「透明」と言えるのでしょうか？ 事実上、透明性が完全に消されました。倫理的な臓器摘出から非倫理的な臓器摘出を区別する術がなくなったのです。

大掛かりな計略で授けられた名誉教授の肩書を取り下げることが、一貫性がないように思われるかもしれません。過去の犯罪（過去であるならば）に直面しないことは我々が隠蔽に加担することを意味します。とがめられるべき隠蔽された歴史を否定するために、中共が欧米から求め必要とするものなのです。犠牲者の家族のために歴史を消し去らないことが我々の責務だと信じます。

彼らは私たちの隣人です。

彼らを慈しむことが 私たちの義務です。

トニー・アボット氏は 今朝 こう言われました。

「一部の者に慈悲をかけすぎると、全体に対する公平さが欠けてしまう」
逆にとらえられているようです。私はこう言います。

「一部の者に慈悲をかけなさすぎると、全体に対する公平さが欠けてしまう」

慈悲をかけることが求められています。

特に、最も弱い立場にある隣人のために。

特に、信仰を続けることを求めただけで、迫害を受けている者のために。

我々にもたらされる報酬は「正義」となることでしょう。